第１章　森町の現況と課題

１．森町の特性

（１）位置

森町は、静岡県西部の中遠地域北部に位置し、北西は浜松市天竜区、南西は磐田市、北東は島田市、南東は掛川市、南は袋井市と接しています。町域は東西約 13 ㎞、南北約 24 ㎞と南北に長く、面積は 133.91 ㎢ となっています。

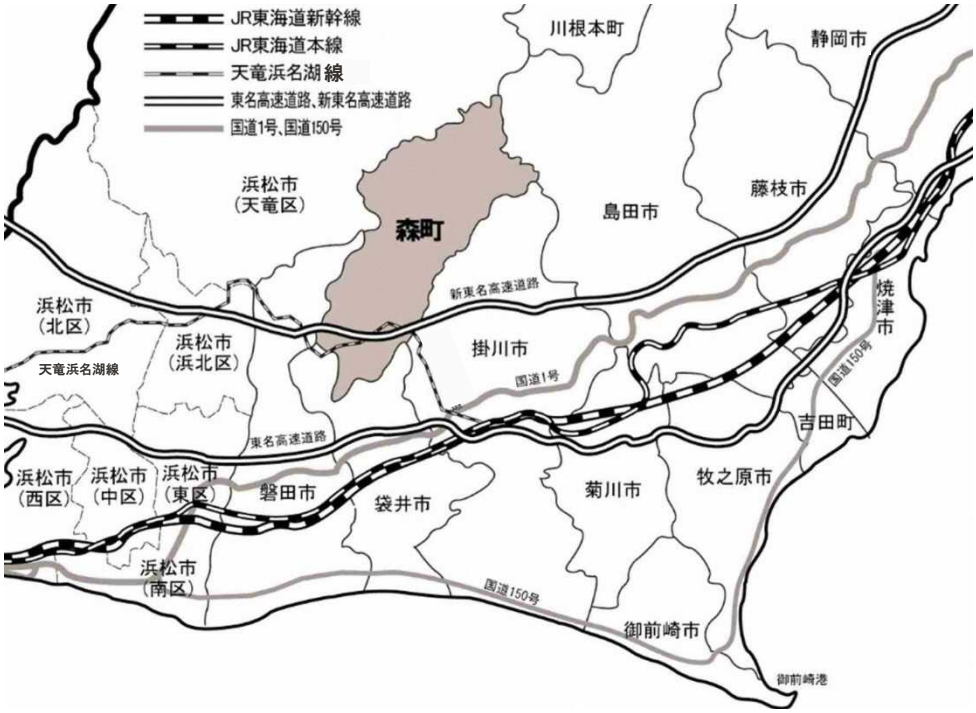
静岡市から約60㎞、浜松市から約25㎞に位置し、2012年に新東名高速道路森掛川ＩＣが、2014年に遠州森町スマートＩＣが供用開設されたことにより、広域交通の利便性が向上しています。

（２）地形・水系

町の地形は、東西に狭く南北に長い地形で、赤石山系に属し、高峻な山陵がそれぞれ扇型に形成されています。また、北部は三倉川・吉川流域の狭い谷底低地と崖錘が形成されている中小起伏山地、中部の太田川沿いに形成された市街地と南部に広がる田園地域は谷底平野・扇状地や自然堤防の低地とそれらを取り巻く丘陵地に大別されます。

こうした地形のなか、町には、太田川をはじめとする８本の二級河川と 18 本の準用河川が流れています。河川の流域は、町の北西部の一部が天竜川流域となっているほかは、大半が太田川流域に含まれており、太田川流域はさらに９つの流域に区分されます。

■ **位置図**



（３）標高・傾斜

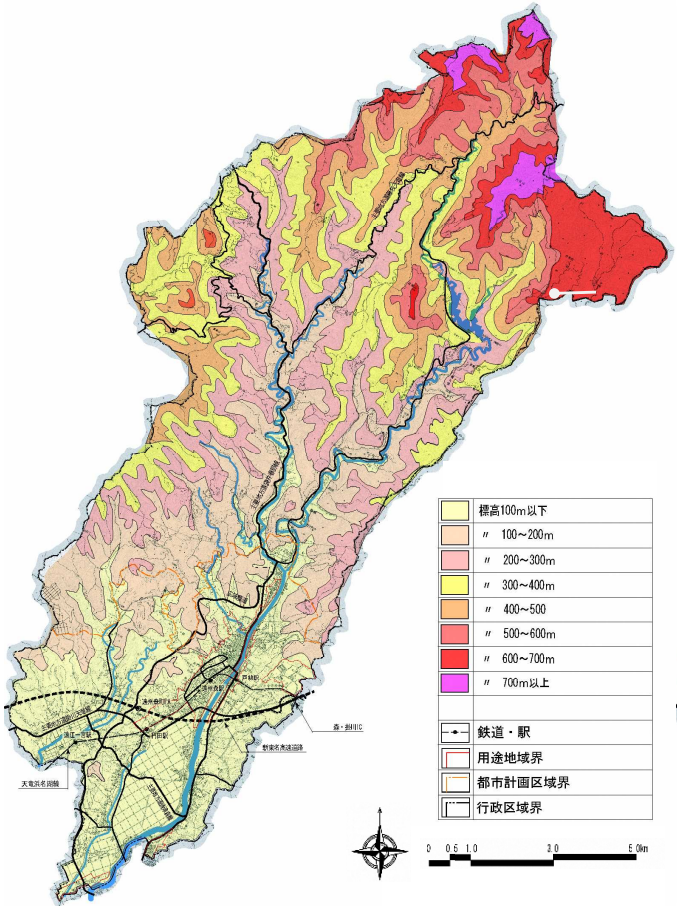
本町の標高は、最も高いところで 941m（町最北端）、最も低いところで 15.4m（町最南端）となっており、市街地は標高 40m前後に広がっています。

傾斜度は、北部の山間地は 15 度以上、平坦部を取り囲む丘陵地は３～15 度未満、市街地や南部に広がる田園地域は３度未満となっており、北部に行くほど傾斜がきつくなっています。

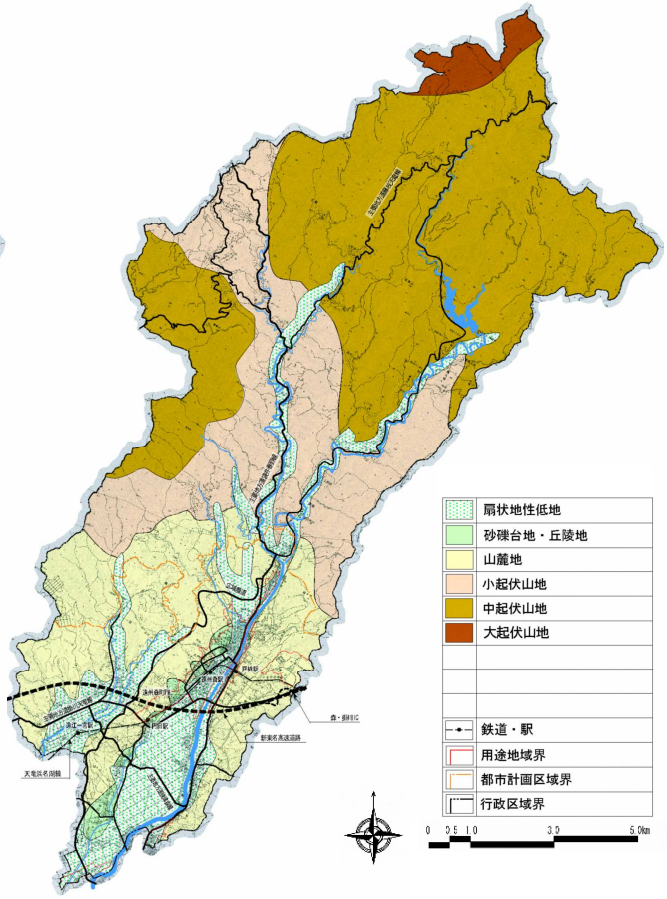
（４）地質

本町の山地は、四万十層群で安山岩質凝灰岩及び頁岩等からなる硬い岩石となっており、町全域の70%を占めています。丘陵地は、礫、砂、シルト互層からなる掛川層群や砂岩を主体とした倉真層群からなっています。中心的な市街地や太田川流域は、泥、砂礫層となっており、南部に広がる田園地帯は、軟弱な泥層となっています。

■ **標高地図**（出典：森町国土利用計画）



■ **地形分類図**（出典：森町国土利用計画）



（５）植生

町の南部に広がる平坦地には水田等が、傾斜が緩やかな山地や丘陵地の一部には茶畑が分布しています。樹林地はスギ、ヒノキ、アカマツ等の植林地が大部分を占め、広葉樹林が、北部山地に点在しています。

（６）気候

本町の年平均気温は、約 16℃と、年間を通じて温暖で穏やかな地域となっています。年間降水量は、近年増加傾向にあり、平均 2,500mm前後となっています。

（７）まちの成り立ち

町内には、太田川流域の丘陵部に縄文時代の生活跡としての集落の遺跡分布が広く確認されており、以後、弥生・古墳時代に入り、急速な発展をみせ、流域に集落の形成が始まりました。

平安時代、現在の森町の辺りは飯田荘と一宮荘との２つの荘園及び三倉・谷中・牛飼・米倉などの公領に分かれていたといわれ、飯田荘には上ノ郷、戸和田郷、下ノ郷があり、一宮荘には上ノ郷、天宮郷、太田郷（森ノ郷ともいわれ、現在の森町中心部周辺）、円田郷、下ノ郷があったとされています。

室町時代の遠江の守護は、今川氏から斯波氏、その後今川氏と変遷しましたが、戦国時代の後期に至って徳川家康の所領となりました。家康が関東へと転封したのち、町の中心部は豊臣氏の所領となり、掛川城主山内一豊の支配下となりました。

また、室町時代以降、秋葉山信仰と信州方面へと通じる秋葉街道（塩の道）の宿場町として栄え、江戸時代には、古着のまちとして全国の古着相場を左右するほど繁栄しました。

1889 年（明治 22 年）の市制・町制の施行によって、旧来の郷村はそれぞれ飯田村、園田村、一宮村、森町、天方村、三倉村となり、1955 年（昭和 30 年）には、天方村、森町、一宮村、園田村、飯田村の５か町村が合併し、さらに翌年、三倉村と合併、同時に小笠郡原泉村佐賀野及び中塚地区を編入して、現在に至っています。

当時の１町５村のコミュニティは今も残されており、旧町村単位を基本とした「三倉」、「天方」、「森」、「一宮」、「園田」、「飯田」の地区名は、町民等に慣れ親しまれています。

２．森町の現況と課題

（１）人口・高齢化

○　町の人口は、自然減・社会減により、今後２０年間で現在の約８割まで減少すると推計されています（2020 年 約 1.8 万人が、2040 年 約 1.4 万人に）。

○　高齢化も進み、2040 年には町民の約４割が 65 歳以上になると推計されていますが、町内には元気な高齢者が多いという特徴があります。

○　人口減少・少子高齢化が進むことで、生産年齢人口の減少（2020 年 約 1.0 万人が、2040 年 約 0.7 万人）、地域コミュニティの喪失、生活を支えるサービスの質の低下等が懸念されます。

■ 森町の人口動態

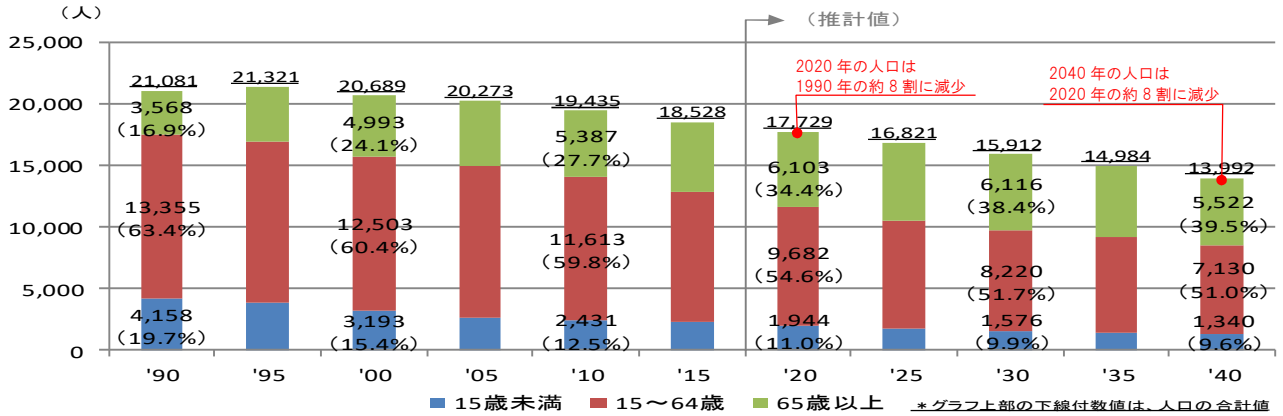
①　2000 年以降、急激に人口減少・少子高齢化が進行。2040 年には、人口は 2020 年の約８割まで減少し、約４割が 65 歳以上になると推計。

②　特に、中山間地である三倉、天方地区の人口減少が顕著。

③　人口分布は、町全体の９割（約 1.6 万人）が都市計画区域内に、その内、約５割弱（約 8 千人）が用途地域内に居住。

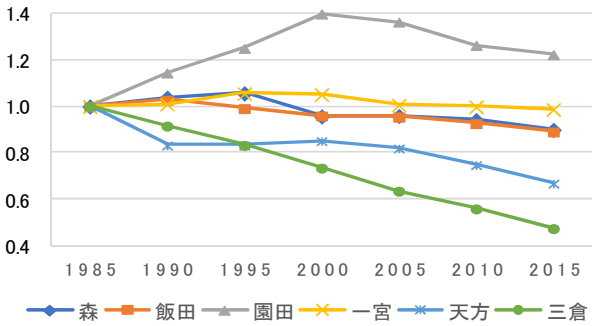
④　用途地域のなかでも、本町から城下地区に続く街道沿いや（主）袋井春野線沿いに、人口が集中。

① 人口・高齢化の動向　（参考：2015 国勢調査及び国立社会保障 人口問題研究所資料）



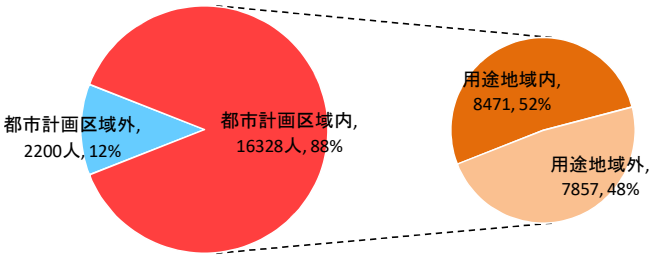
② 地区別人口変化率

（参考：2015 国勢調査、1985 年（S60）を１とした場合）



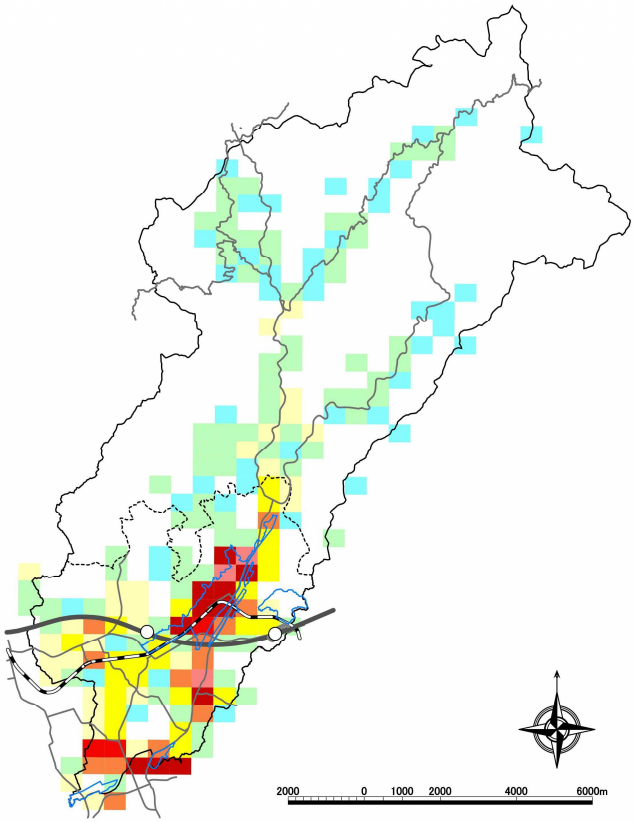
③ 都市計画の区分ごとの人口

（出典：2015 国勢調査）

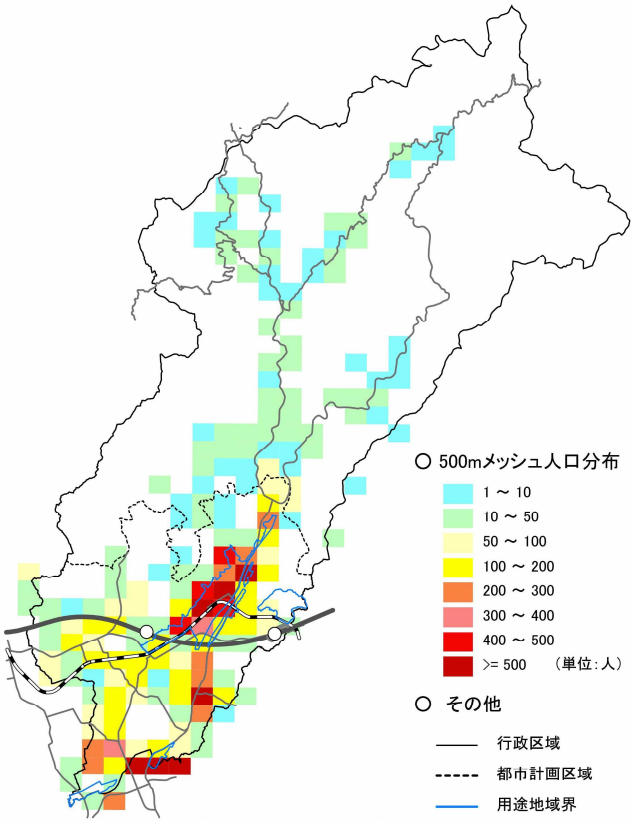


④ 500mメッシュでみる人口密度・高齢化　（参考：国土数値情報 500m ﾒｯｼｭ別将来推計人口）

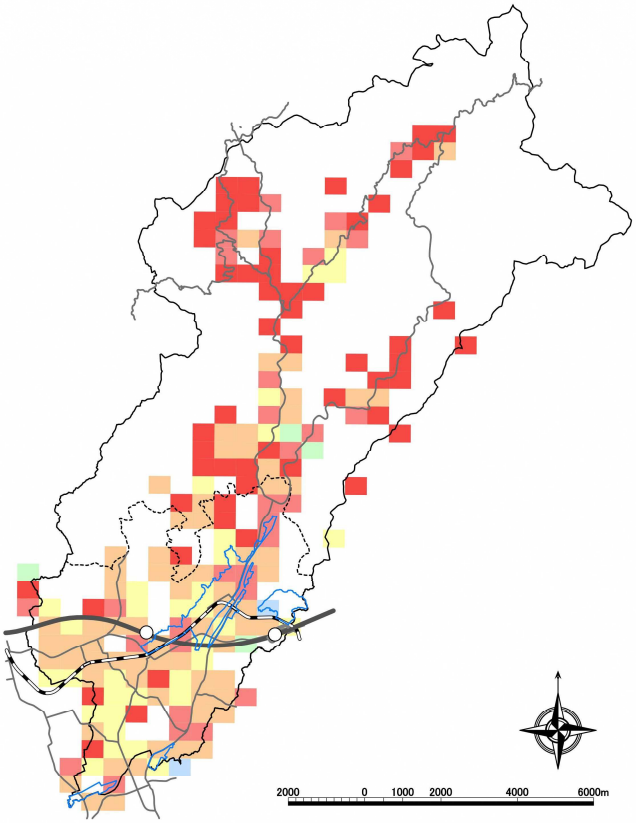
【人口分布 2020 年】



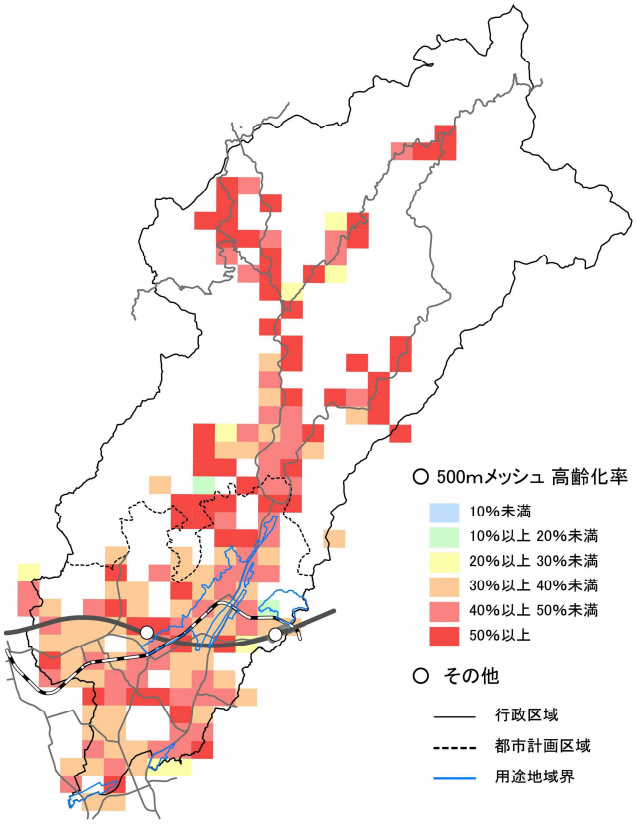
【人口分布 2040 年】



【高齢化率 2020 年】



【高齢化率 2040 年】



■ 元気な高齢者

① 森町では、高齢化率は高いものの、元気な高齢者が多い。

・ 静岡県は、全国２位の健康寿命

・ 静岡県内において、森町は元気な高齢者が多い自治体

①-１ 健康寿命が高い県

（厚生労働省、2010・2013・2016 の平均値）

男性			女性		
順位	都道府県	歳	順位	都道府県	歳
1	山梨県	72.31	1	山梨県	75.49
2	静岡県	72.15	2	静岡県	75.43
3	愛知県	72.15	3	愛知県	75.30

②-２ 森町のお達者度の推移

（静岡県調査）

調査年度	男性		女性	
	お達者度（年）	順位	お達者度（年）	順位
2011	18.82	1	21.44	4
2012	19.49	1	22.05	1
2013	18.33	2	21.88	2
2014	18.33	6	22.43	1
2015	17.90	18	21.71	5
2016	18.16	16	21.43	12

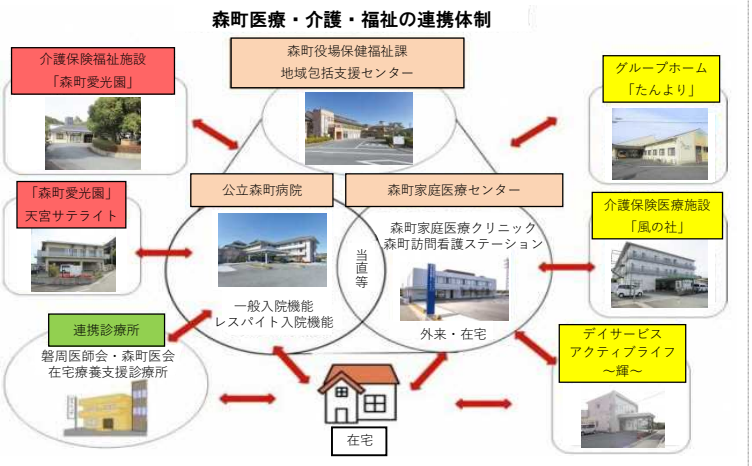
【参考】 元気な高齢者が多い要因推察

考察	森町の取組
① 介護の認定率は高いが、軽度者が多く、比較的早い段階からサービスを利用し、自立した生活を長く続けている人が多い。	○ 介護予防事業（脳活性化教室、運動教室の開催）の推進 ○ ご当地体操の作成・普及
② 各種ボランティア活動が盛ん。	○ 介護支援ボランティア活動（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾎﾟｲﾝﾄ制度）の推進 ○ 元気もりもりサポーターによる「100 サロン」の開催
③ 年間を通して、農林産物（名産品）の栽培が盛んであり、高齢になっても働く場が多い。	○ 土地改良事業により、水田が汎用化され、年間を通したローテーションにより、多様な農作物の栽培が可能 ○ 遠州森の茶、次郎柿(治郎柿)の栽培
④ お茶農家、お茶販売店(茶商)が多く、日頃からお茶をたくさん飲む、楽しむ文化が根付いている。	○ 急須でお茶を飲むまちづくりの推進 ○ 茶業振興協議会の取組

【参考】 森町の医療提供体制 （出典：森町病院ホームページ「20 年間の取組」）

○病院の歩み

1992 訪問介護・診療開始
1997 （新）公立森町病院開設
1999 退院支援の強化
2008 近隣病院との業務提携
（磐田市立総合病院）
2009 二次的医療圏での役割の明確化
2010 在宅医療の強化（診療所の在宅医療支援）
2011 家庭医との連携強化
（森町家庭医療ｸﾘﾆｯｸによる家庭医養成）
2012 多職種連携強化
（在宅医療ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成による在宅医療の支援）
2014 地域包括ケアの強化
（地域包括ケア病床導入）
2016 機能別病棟運営（地域包括ケア病棟導入）



■ 町内外の人口移動

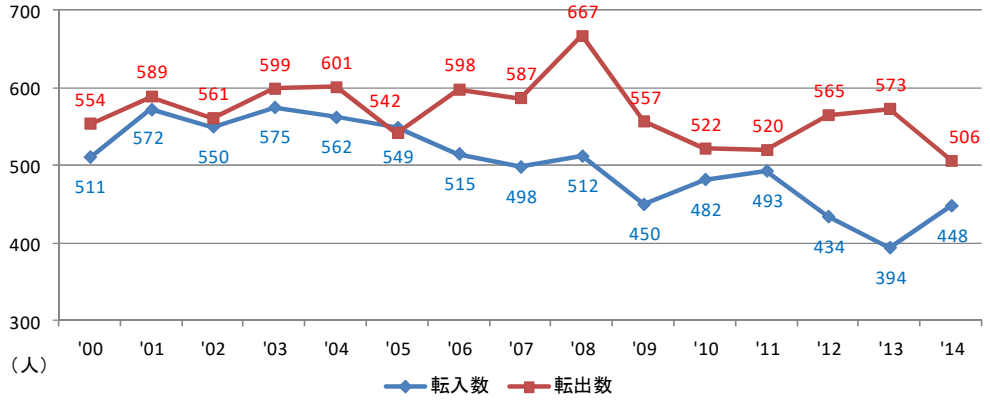
① 町内外の人口移動は、転出数が転入数を上回る社会減の傾向。

② 転入・転出先は、袋井市が最も多く、次いで浜松市、磐田市、掛川市など、森町の近隣市町が多い。

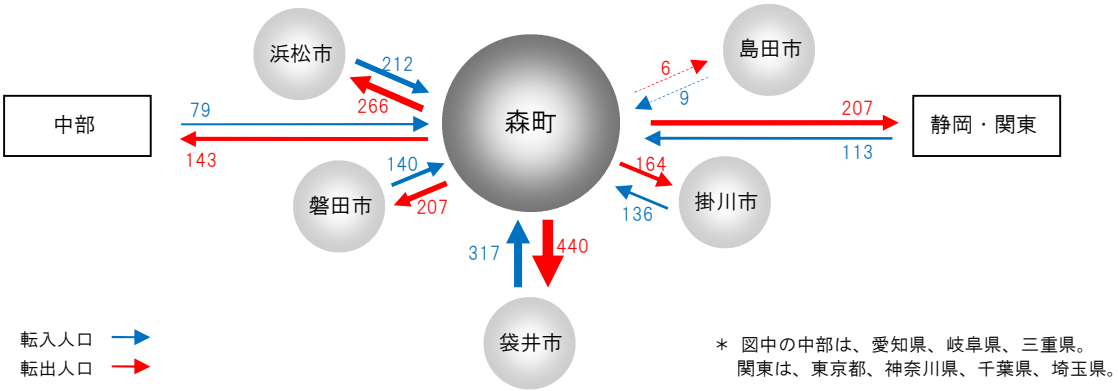
③ 流入・流出は、2010 年まで流出超過であったのが、2015 年には流入超過となった。2012 年の新東名高速道路の開通に伴う、新規工場立地等の影響と推察。

④ 町内の外国人人口は、増加傾向にある。（2017.1.1 から 2019.1.1 まで約 100 人増加）

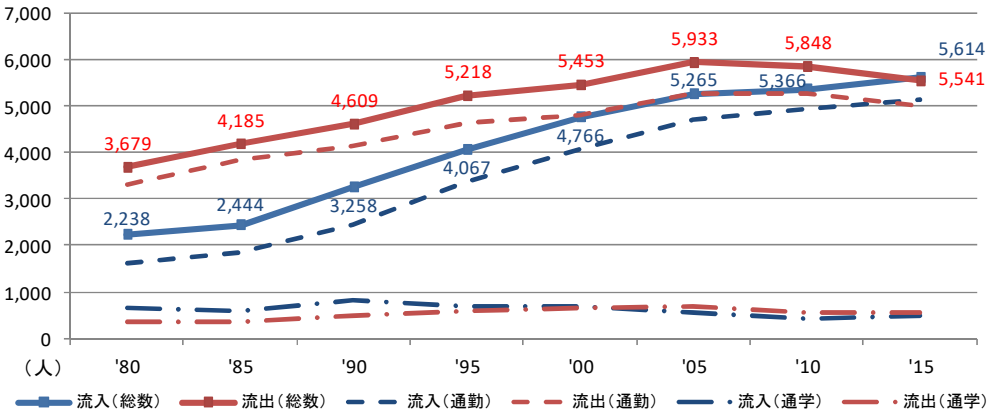
① 転入・転出数の推移　（出典：町住民生活課資料）



② 転入・転出先　（出典：2015 国勢調査）



③ 流入・流出（通勤・通学）　（出典：2015 国勢調査）



（２）産業

○　町の産業は、製造業が盛んで総生産額の約６割を占めています。

○　産業別生産額の総額は増加傾向にあるものの就業者数は減少傾向にあり、人口減少・少子高齢化の影響から、今後も産業を支える担い手の減少が懸念されます。

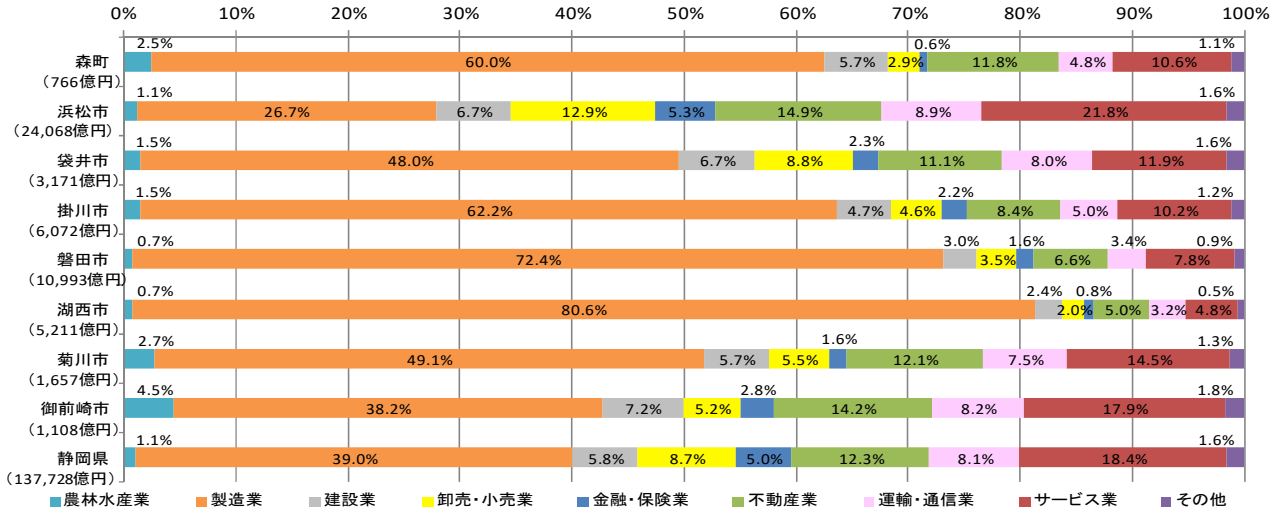
■ 産業全体の動向

①　町では多様な産業が営まれているが、なかでも製造業が盛んで総生産額の６割を占めている。近隣市町の傾向も概ね同様。

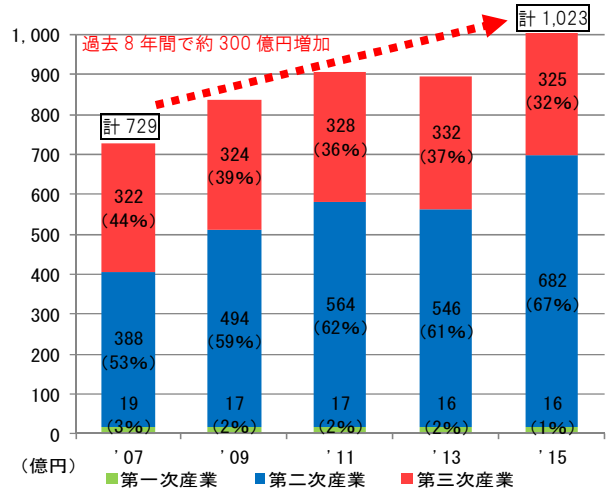
②　産業別生産額は、概ね増加傾向にあり、2015 年には 1,000 億円を超えている。第２次産業の全体に占める割合が増加しており、2015 年には全体の７割弱を占める 682 億円となっている。

③　産業別就業者数は、1995 年をピークに減少傾向にあり、2015 年には１万人を割り込んでいる。第３次産業の全体に占める割合が増加しており、2015 年には全体の５割を超える約 5,000 人が従事。

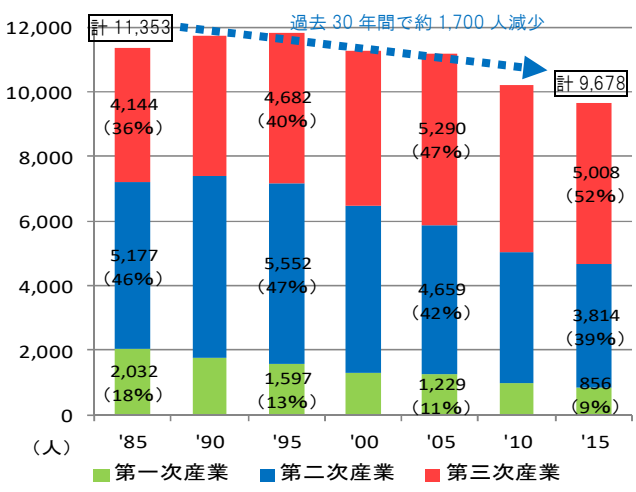
① 周辺都市との総生産額の割合比較　（出典：しずおかけんの地域経済計算 2014）



②産業別生産額の推移（出典：しずおかけんの地域経済計算 2014）



③ 産業別就業者数の推移（出典：国勢調査 2015）



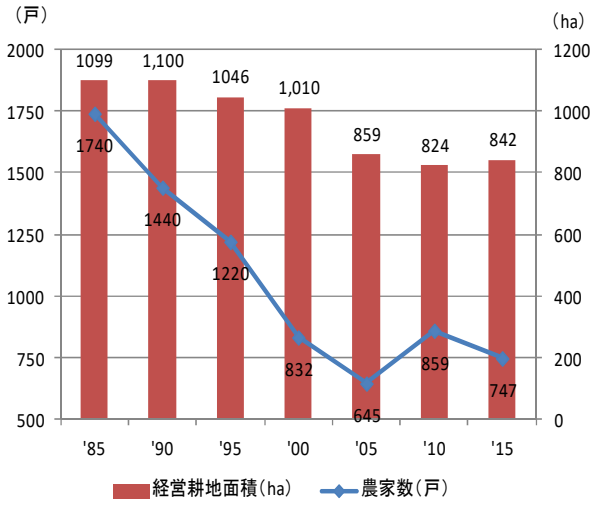
■ 農業・商業・工業の動向

① 農林業は、温暖な気候に恵まれ、米・茶・レタス・スイートコーン・温室メロン・次郎柿（治郎柿）など多彩な農業が営まれ、山間部では、しいたけなどの栽培や林業が盛ん。しかし、近年、従事者の高齢化や後継者不足、農産物の販売価格の低迷、耕作放棄地の増加等が課題。耕作放棄地は、地区別では特に三倉、一宮、園田地区の増加が著しく、農作物種別では茶園及びその他樹園地の耕作放棄地化が目立つ。

② 商業は、商店数が年々減少傾向にあり、1994 年から 2014 年にかけて、５割程度まで店舗数が減少。年間販売額も、大型スーパーの立地による一時的な増加がみられるものの、全体としては減少傾向。なお、森町は、袋井、浜松、掛川の商圏に含まれ、町外の消費が多い（2006 年時点）。

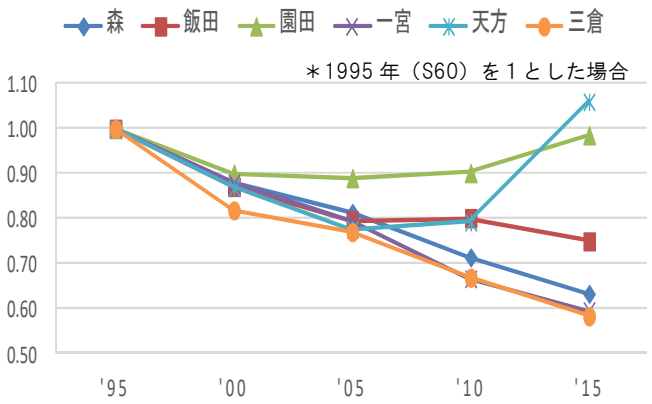
③ 工業は、製造品出荷額等は概ね増加傾向にあるものの、事業所数は減少傾向にある。

①-１ 経営耕地面積と農家数



①-２ 地区別の耕作放棄地の推移

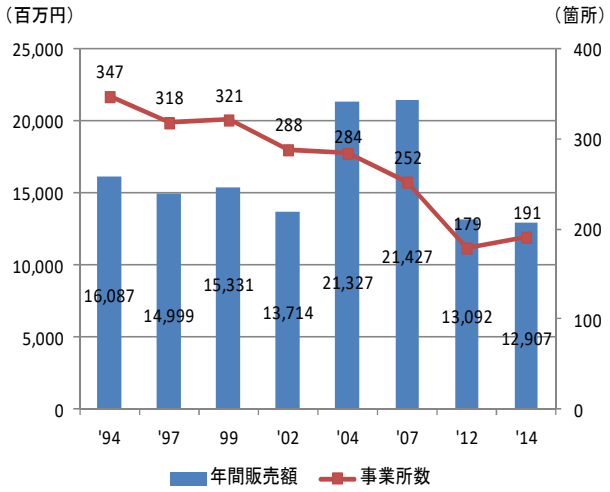
（①-１、①-2 ともに出典：農林業センサス）



＊一宮地区の 2000 年の耕地面積は、1995 年比 1.38 倍の異常値だったため、修正。

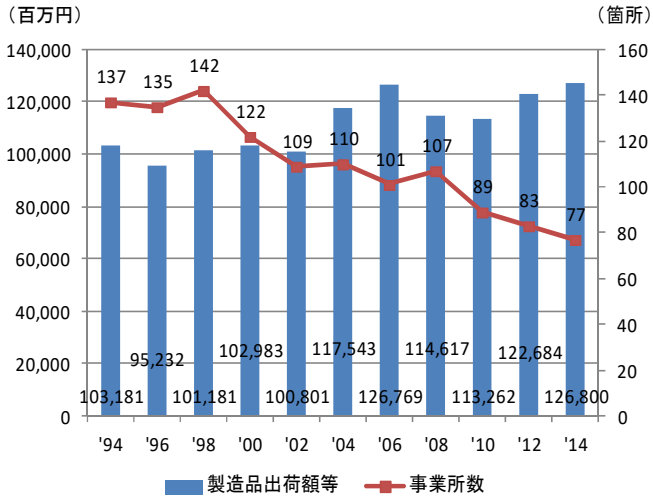
② 商品年間販売額と事業所数の推移

（出典：商業統計調査、経済センサス）



③ 製造品出荷額等と事業所数の推移

（出典：工業統計調査）



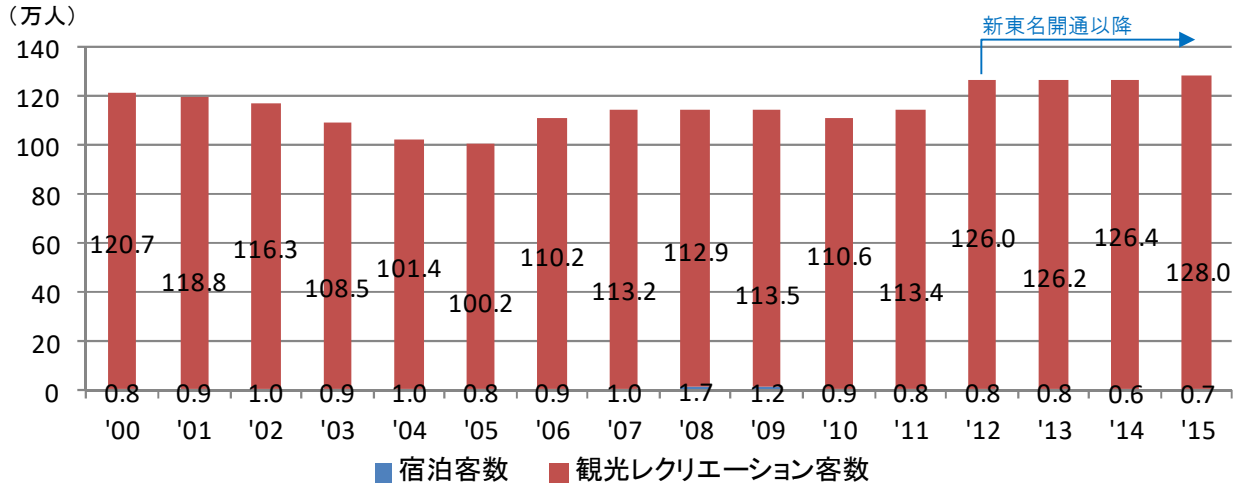
■ 観光の動向

① 新東名高速道路が開通した 2012 年以降、年間 120 万人以上の観光客が訪れている。一方、宿泊客は１万人未満と少なく、通過型の観光地となっている。

② 町の主な観光資源として、以下があげられる。

- 小國神社や天宮神社など、歴史を感じさせる古寺古社
- 豊かな自然環境を活かした、森町体験の里アクティ森やゴルフ場などの体験・レジャー施設
- 町内外から多くの人を集客する、森のまつりや産業祭「もりもり２万人まつり＆農協祭」などの祭事
- 米・茶・レタス・スイートコーン・温室メロン・次郎柿（治郎柿）などのこだわりの農産物

① 観光客の推移 （出典：静岡県観光交流の動向）



② 森町の観光資源 （出典：観光協会ホームページ等））

① 小國神社

- 遠江国一宮として知られる古社。
- 初詣や紅葉を楽しみに、年間多くの人が来場。
- 鳥居横の休憩処ことまち横丁では、森の茶や華うどんなどが楽しめる。
- 重要無形民俗文化財の十二段舞楽の伝統がある。
- 縁結びの木がある。

②森町体験の里アクティ森

- 創作体験工房やアウトドア体験フィールド、地場産品販売所などを備えた複合型体験施設。
- 伝統工芸である紙すきや身近な植物を利用した草木染め、焼き物などが体験できる。
- 屋外ではパターゴルフやマウンテンバイクといったアクティビティーも楽しめる。

③遠州森のまつり

- 11 月第 1 週の金・土・日曜に行われる。
- 各町内 14 台の華麗な彫刻の屋台が引き回され、夜には各筋で屋台のぶつかり合う激しい練りが見られる。
- 3 日目の夜の舞児還しで、祭りは最高潮に。

④昔ながらの町並み

- 昔ながらの町並みと風情を見ることができる。
- 日本の風景を世界に知らしめた地理学者志賀重昂（しがしげたか）は、この地の風景の美しさに心を打たれ「森町之賦」に、「小京都」と詠んで讃えた。

⑤次郎柿（治郎柿）

- 森町が原産で、町内にある原木は県の文化財（天然記念物）に指定されている。
- 豊かな自然と温暖な気候の森町のいたるところに柿の木があるほど栽培が盛んである。
- 10～12 月が旬である次郎柿は「甘柿の王様」と呼ばれるほどとても甘い。

⑥太田川ダム・かわせみ湖

- 多目的ダムとしてつくられた太田川のダム湖。
- 湖周辺には休憩所や気軽に歩ける散策コースが整備されている。
- 彩岬展望台の先端は 360 度パノラマビューが広がる絶景を見ることができ、湖畔広場や野鳥観察エリア、学習の森などがある。

（３）土地利用

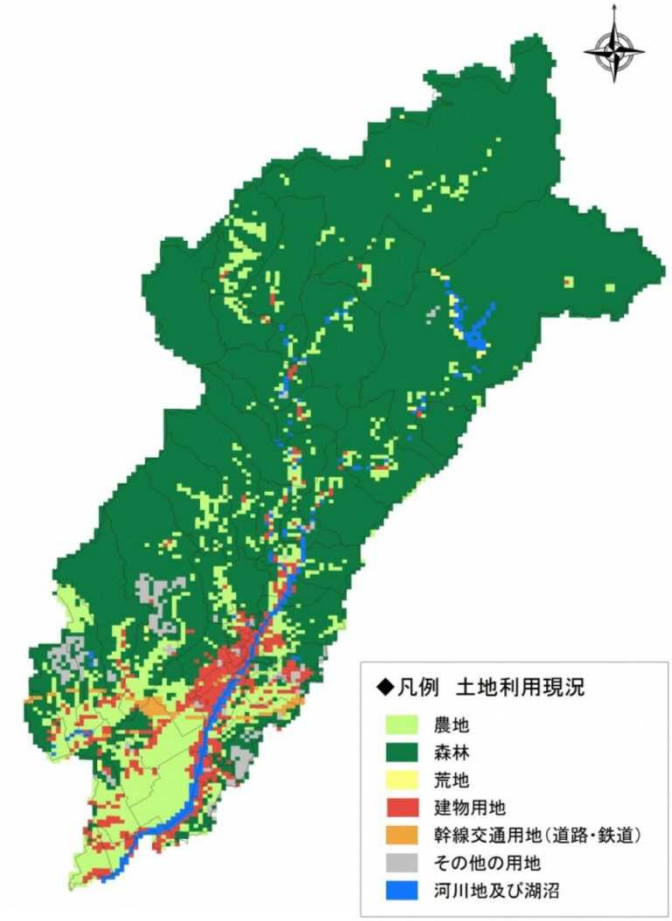
○　町域の８割以上が森林や農地などの自然的土地利用となっており、豊かな自然環境のなか、太田川沿いの低地等にコンパクトな市街地が形成されています。

○　北部の山間地を除く、町域の約 24%を都市計画区域に指定し、そのうち太田川右岸の市街地や北戸綿工業団地などでは、地域特性に応じた９種類の用途地域（318.1ha）を指定しています。

○　今後、人口減少や高齢化が進むことで、管理不足の土地や建物（空き家・空地や耕作放棄地等）が増えることが懸念されます。

■ 町全体の土地利用

（出典：国土数値情報）



■ 用途地域等の指定状況

（出典：静岡県の都市計画（資料編））

行政区域と都市計画区域	面積（ha）	割合＊1（%）
行政区域	13,391	100.0
都市計画区域	3,198	23.9 （100.0）
（うち用途地域）	318.1	2.4 （　9.9）
人口集中地区＊3	0	0 （　0）
用途地域	**面積（ha）**	**割合＊2（%）**
第一種低層住居専用地域	43.5	13.7
第一種中高層住居専用地域	39.4	12.4
第二種中高層住居専用地域	24.4	7.7
第一種住居地域	68.5	21.5
第二種住居地域	14.7	4.6
近隣商業地域	24.0	7.5
準工業地域	16.6	5.2
工業地域	7.0	2.2
工業専用地域	80.0	25.1

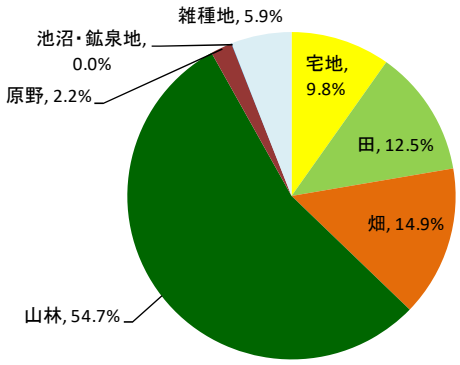
＊１　割合は、上段が行政区域に対するもの、下段括弧内が都市計画区域に対するもの

＊２　割合は、用途地域 318.1ha に対する割合

＊３　人口集中地区とは、人口密度 40 人/ha 以上の地区が隣接し、併せて人口 5,000 人以上となる地区のこと。森町は、人口密度 40 人/ha を超える地区はあるものの、こうした地区が隣接して人口 5,000 人以上となる地区がないことから、人口集中地区はない

■ 町全体の土地利用種別の面積割合

（出典：2017 土地課税台帳）



（４）基盤整備

○　町では、土地区画整理事業や都市計画道路、都市計画公園など都市計画に基づく基盤整備が進められてきましたが、人口減少や高齢化の影響から、基盤整備の財源は縮減傾向にあり、今後の基盤整備はより効率的に進めるとともに、適切に維持管理を進めていく必要があります。

○　2012年に開通した新東名高速道路は、利用台数が増加傾向にあります。今後も町に２つあるインターチェンジを活用した産業誘致や、周辺市町との連携促進を図ることが求められます。

○　2017 年に完了した天宮区画整理事業のエリアには、子育て世代を中心に約 440 人の住民が居住しています。

■ 都市計画道路の整備状況　（出典：静岡県の都市計画（資料編）2018）

番号		路線名	計画幅員(m)	車線数	計画延長(m)	改良済延長(m)	概成済延長(m)	国県市町別
1	1･2･1	第二東名自動車道	37	―	6,920	6,920	0	国道
2	3･3･3	森町袋井インター通り線	25	4	7,370	0	0	県道
3	3･6･6	下宿城下線	9	2	1,080	95	985	県道
4	3･5･11	駅前本町線	12	2	680	0	680	県道
5	3･5･26	新田赤松線	12	2	2,880	2,160	250	町道
6	3･5･36	大上線	12	2	940	490	0	町道
7	3･4･52	福田地森川橋線	16	2	1,360	130	240	県道
8	3･4･53	インター戸綿線	16	2	1,380	0	190	町道
9	3･5･55	本町下宿線	15	2	120	120	0	県道
10	3･5･64	新田下宿線	12	2	1,220	20	760	町道
11	3･6･65	駅前大門本町線	9	2	1,250	1,090	160	町道
12	3･5･66	草ケ谷駅前線	12	2	670	0	670	町道
森町　計		12路線			25,870	11,025 42.6%	3,935 15.2%	

■ 土地区画整理事業の実施状況　（出典：静岡県の都市計画（資料編）2018）

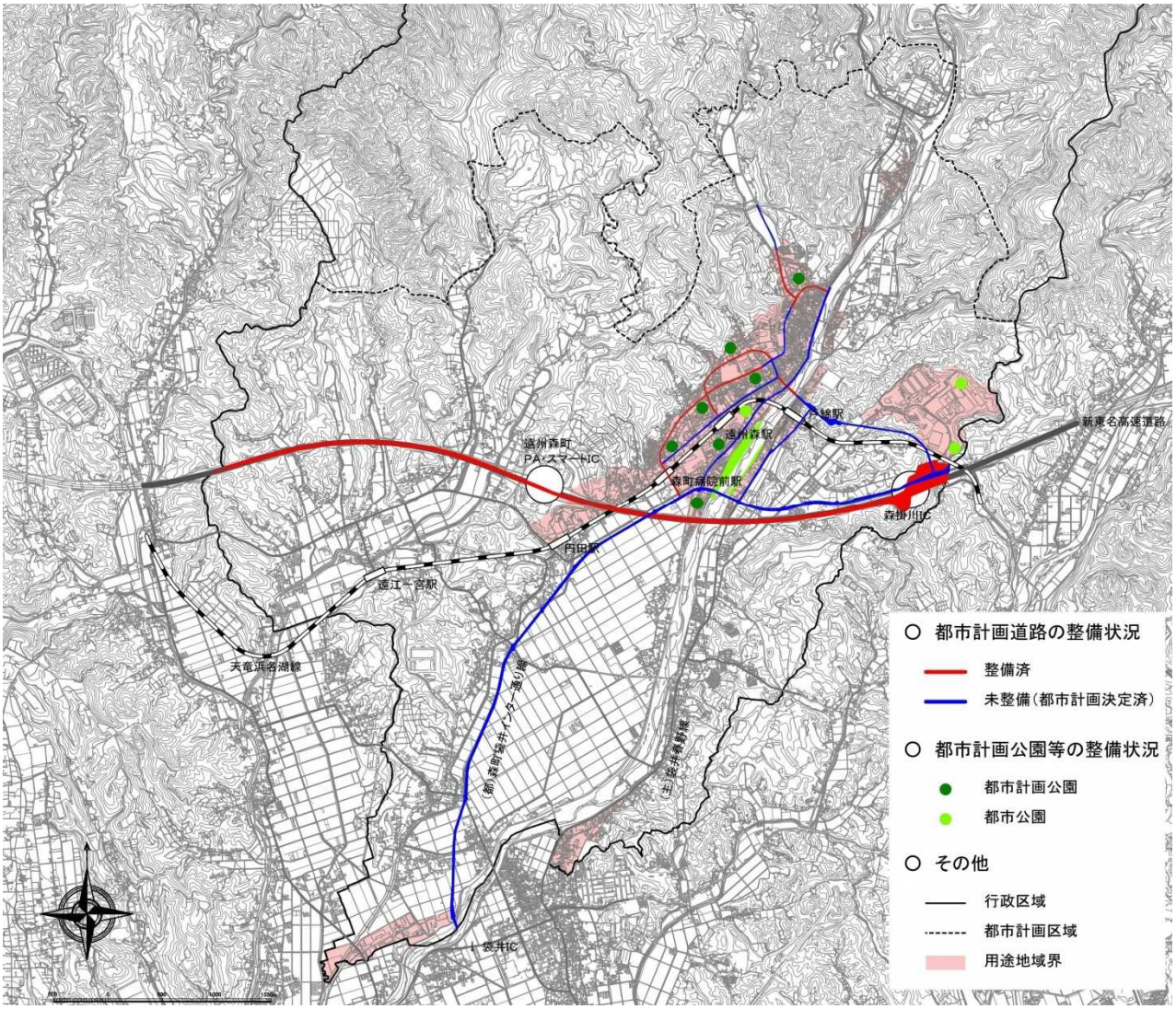
地区名	面積(ha)	実施年度	事業の状況
森町第一	4.6	’72～’74	完了
森町第二	10.5	’75～’79	完了
森町第三	4.9	’80～’84	完了
森町駅南	3.4	’83～’86	完了
森町大門東	9.1	’85～’91	完了
森町駅東	3.4	’96～’01	完了
森町天宮	11.9	’97～’17	完了

■ 都市公園の整備状況

番号		公園名	公園種別	計画面積（ha）	開設面積（ha）	整備率
1	2･2･8	森第一公園	街区公園	0.14	0.14	100.0%
2	2･2･9	森第二公園	街区公園	0.31	0.31	100.0%
3	2･2･13	森第三公園	街区公園	0.15	0.15	100.0%
4	2･2･14	新田公園（南町公園）	街区公園	0.18	0.18	100.0%
5	2･2･15	北見公園	街区公園	0.10	0.10	100.0%
6	2･2･22	大門東公園	街区公園	0.27	0.27	100.0%
7	2･2･23	天宮公園	街区公園	0.36	0.35	97.2%
8	―	北戸綿第一公園※	街区公園	1.34	1.34	100.0%
9	―	北戸綿第二公園※	街区公園	0.64	0.64	100.0%
10	―	駅東公園※	街区公園	0.26	0.26	100.0%
11	―	太田川親水公園※	地区公園	4.46	4.46	100.0%
森町　計		11公園		8.21	8.20	99.9%

※都市計画決定されていない都市公園

■ 都市計画道路及び都市計画公園の計画と整備状況　（参考：都市計画基礎調査）



（５）交通

○　町では、主な移動手段は自動車となっており、周辺市町に比べ１世帯あたりの自動車保有台数が多い特徴があります。

○　町内には天竜浜名湖鉄道の５つの鉄道駅があり、利用者数は概ね増加傾向で、2015 年の利用者数は約 45 万人となっています。

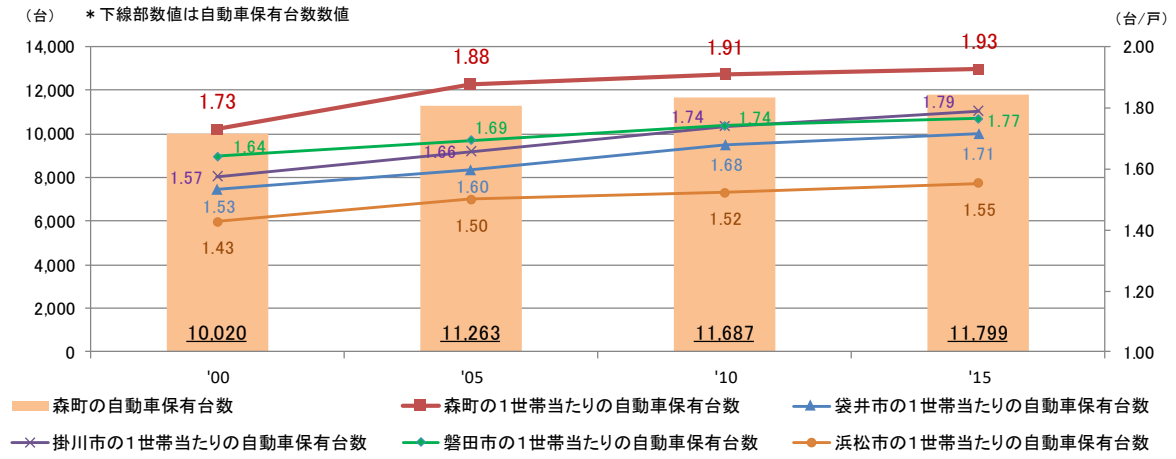
○　バス路線は、民間２、町営２、自主運行１の計５路線があり、市街地だけでなく中山間地の集落にもネットワークを形成しています。利用者数は全体的に減少傾向にあります。なお、ピーク時に、１時間あたり３本以上運行しているバス路線は、秋葉線・秋葉中遠線の遠州森町バス停から袋井方面に向かう区間に限られています。

○　近年、廃止となったバス路線があり、今後さらに人口減少で公共交通の利用者数が減ることが想定されるなか、いかに公共交通のサービスの質を維持していくかが課題となっています。

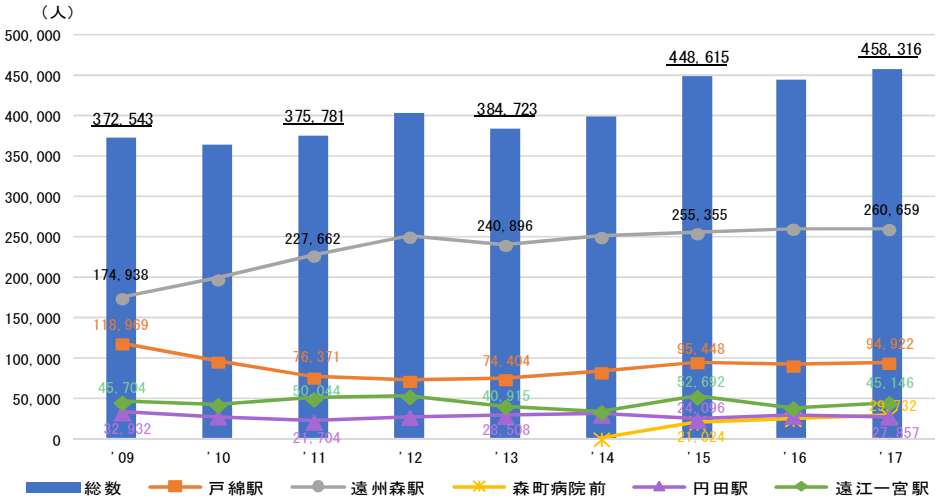
■　交通手段分担率　（出典：2010 国勢調査）

徒歩だけ	鉄道・電車	乗合バス	勤め先・学校のバス	自家用車	ハイヤー・タクシー	オートバイ	自転車	その他	不詳	総数
432 (4.6%)	484 (5.2%)	244 (2.6%)	65 (0.7%)	7,565 (81.4%)	4 (0.04%)	230 (2.5%)	728 (7.8%)	76 (0.8%)	45 (0.5%)	9,294 (100.0%)

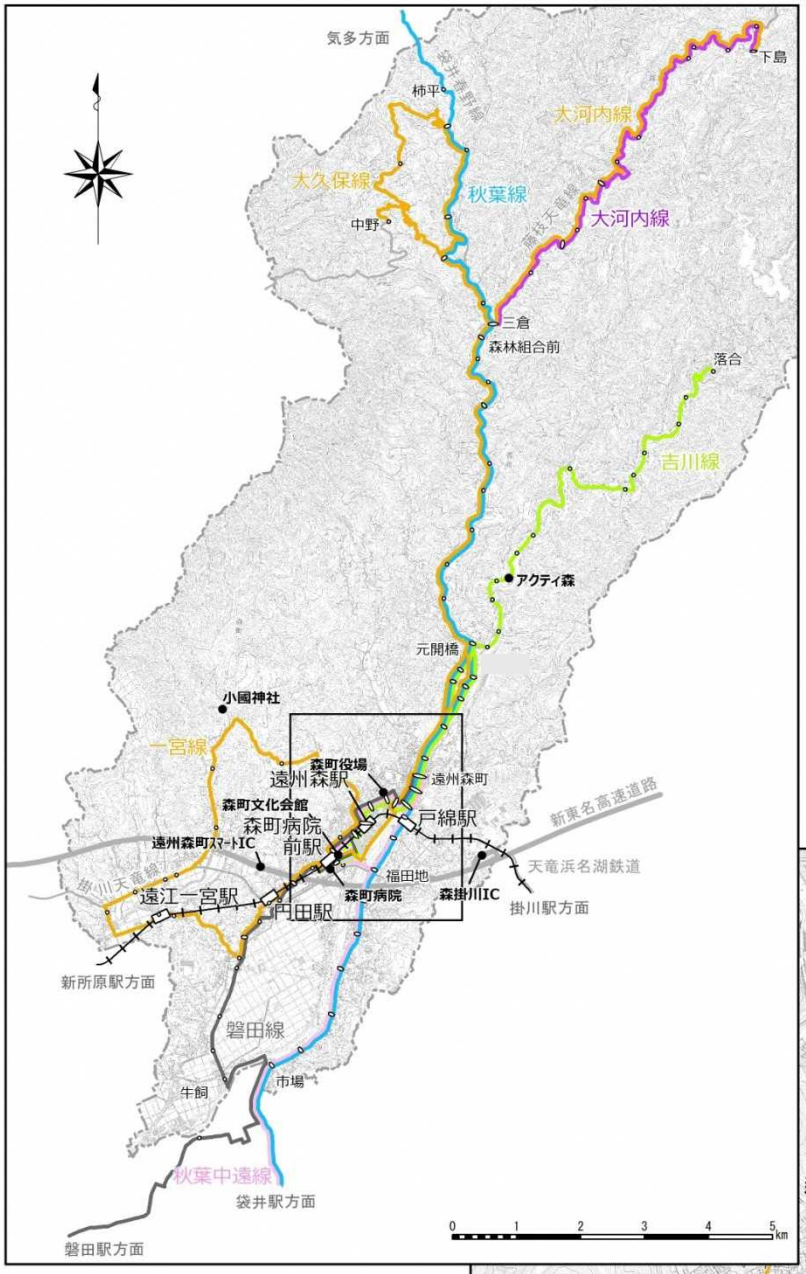
■自動車保有台数　（出典：静岡県自動車保有台数調査、国勢調査）

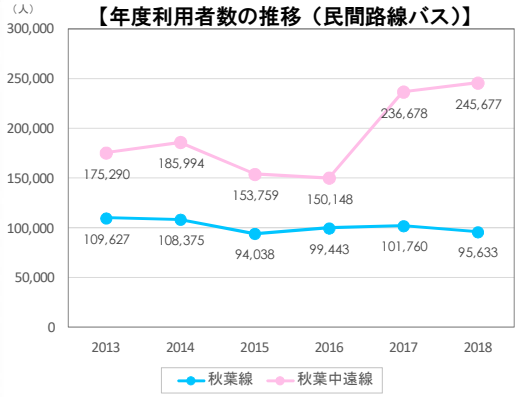


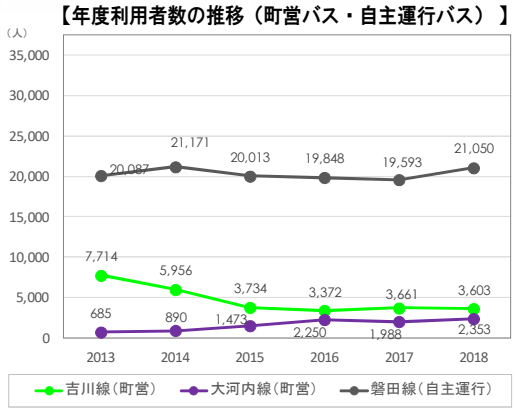
■　天竜浜名湖鉄道各駅乗降客数　（出典：静岡県統計年鑑）

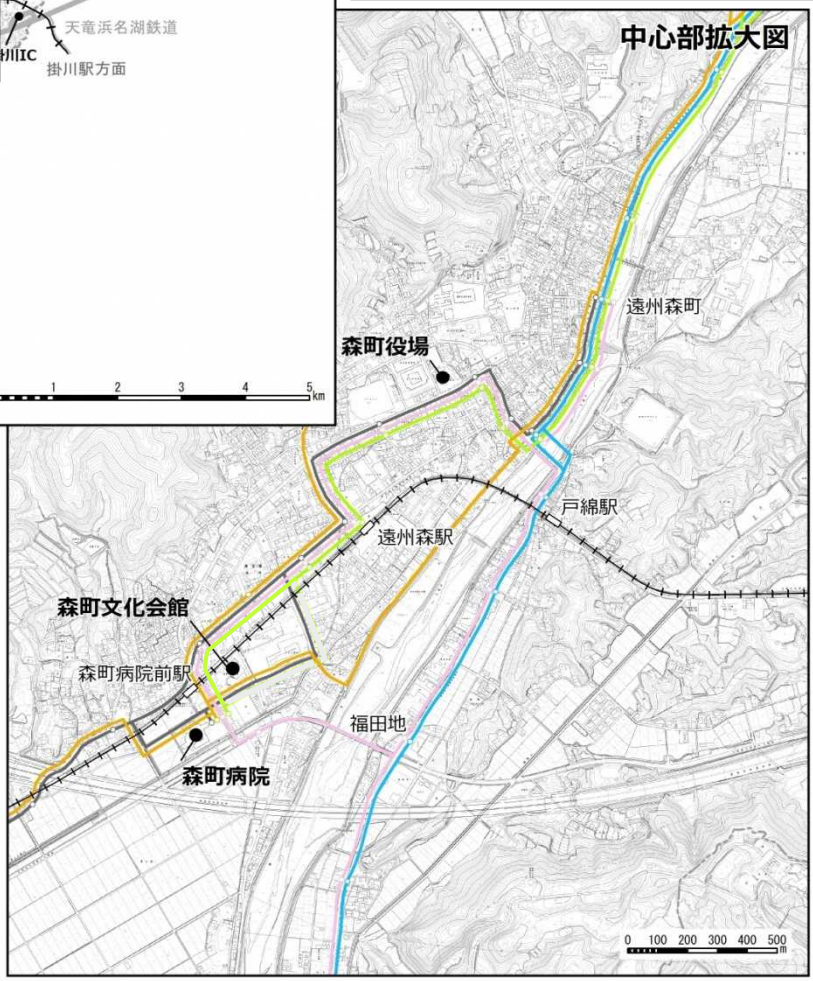


■ バス利用状況及び公共交通ネットワーク図









秋葉バス
- 秋葉線
- 秋葉中遠線

自主運行バス
- 吉川線（町営バス）
- 大河内線（町営バス）
- 磐田線

患者バス
- 大河内線・大久保線・一宮線

- ○ バス停
- ● 主要施設

※患者バス：町内の医療機関への通院のための路線

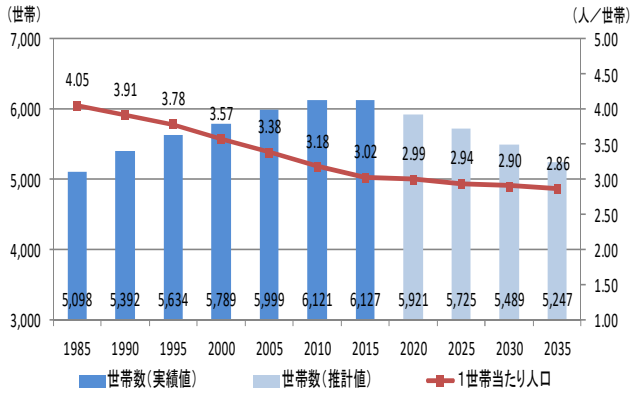
（６）居住環境

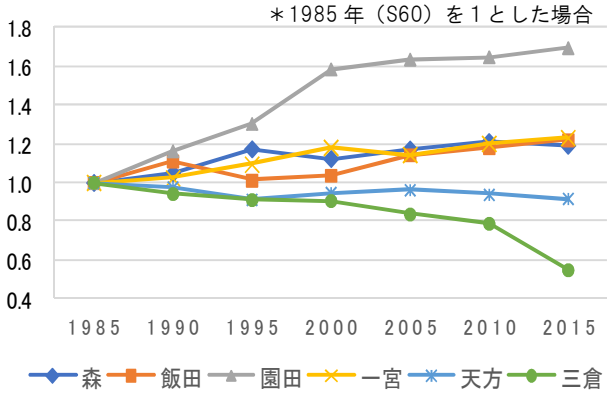
○　町では、人口減少に伴い世帯数も 2015 年をピークに減少し、１世帯あたり人員は３人を下回ると推計されています。地区別の世帯数をみると、三倉地区の減少傾向が目立っています。

○　町は、周辺に比べ地価が安く、土地や建物を所有しやすくなっていることもあり、県内では持家の所有率が２位、また敷地規模の広さが１位という特徴があります（１世帯あたり人員も１位）。

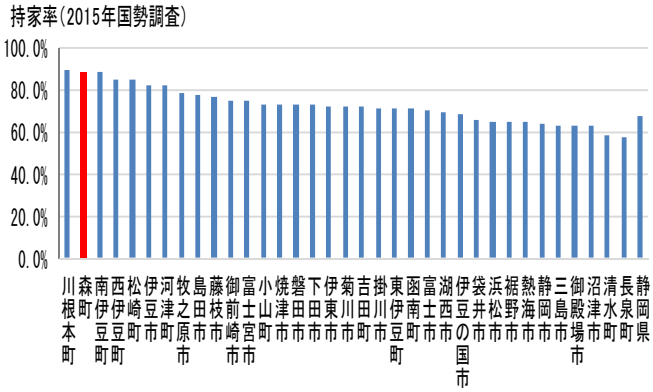
○　一方、近年、空き家が増加しつつあり、住宅土地統計によると、町の住宅ストック 6,820 戸のうち 600 戸超が二次的利用もない空き家とされています。今後、これら空き家が、地域の景観の悪化、防災性の低下等を招くことが懸念されます。

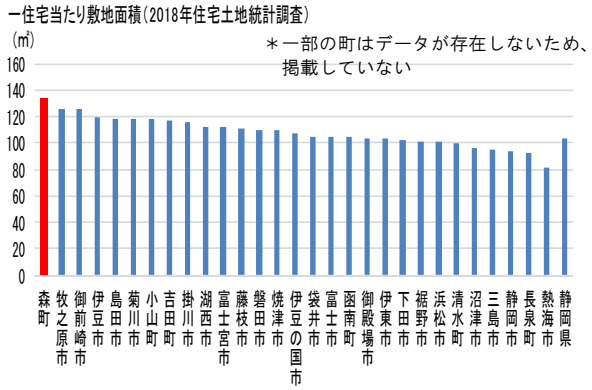
■ 世帯数と世帯当たり人員数の推移、地区別の世帯数の推移　（出典：2015 国勢調査）



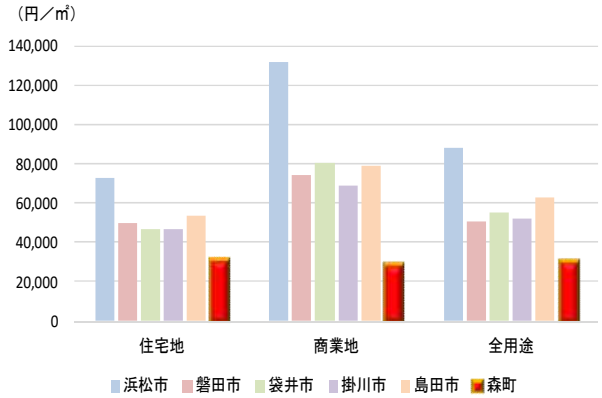


■ 持ち家率と敷地規模　（出典：2015 国勢調査、2018 住宅土地統計調査）

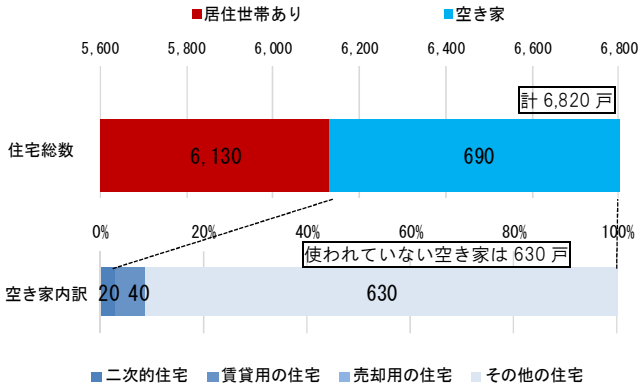




■ 地価（出典：静岡県の土地利用 2019）



■ 住宅ストックと空き家の内訳（出典：2018 住宅土地統計調査）

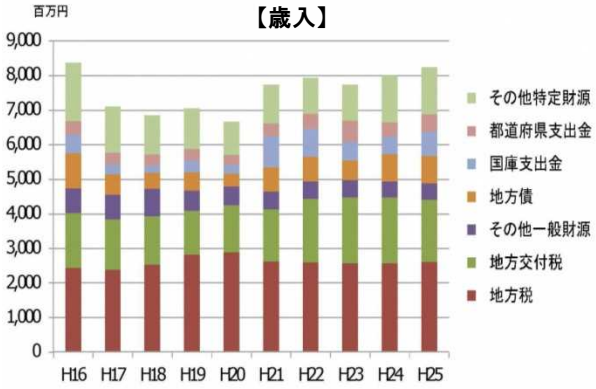


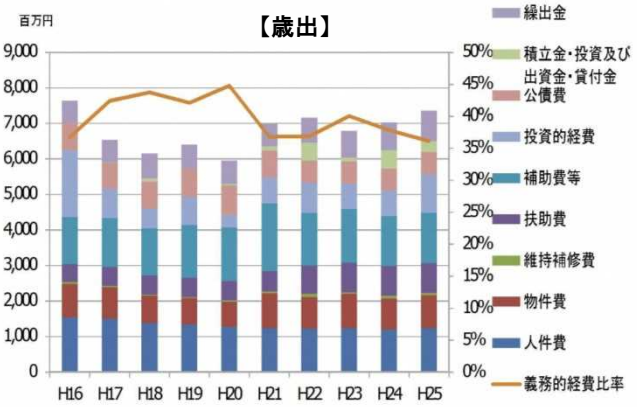
（７）財政

○　今後、人口減少に伴う税収の減少や、高齢化の進行による社会保障費等の増加により、町の財政は厳しくなることが想定されます。

○　今後の財政と公共施設の更新費用の推計では、老朽化する公共施設の更新に必要な費用の不足が見込まれています。

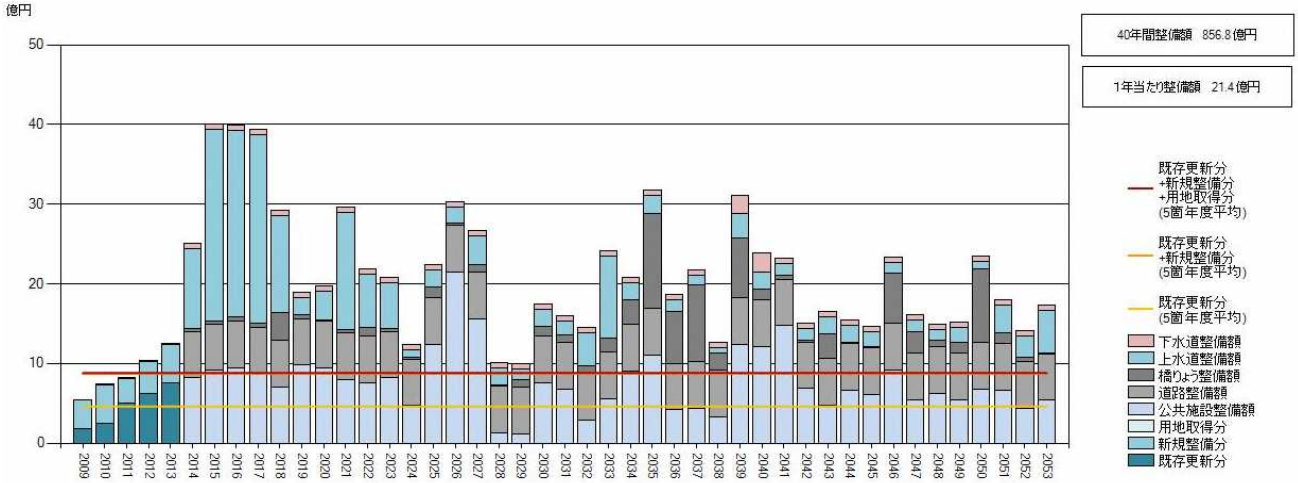
■ 歳入・歳出の推移　（出典：森町公共施設等総合管理計画）





■ インフラを含む公共施設等の更新費用の推計　（出典：森町公共施設等総合管理計画）

○　インフラを含む公共施設等の全体では、2014 年からの 40 年間の整備額 856.8 億円、1 年当たり整備額 21.4 億円の更新費用が見込まれます。



■ 財政と公共施設の更新費用の推計　（出典：森町公共施設等総合管理計画）

○　2014 年からの 30 年間のインフラ･公共施設全体の更新費用の推計と使用可能な金額より、総額で 441.7 億円、年平均 14.8 億円不足する見通しです

	総額（億円）	年平均額（億円）
公共施設等全体の更新費用	675.1	22.5
使用可能な金額	233.4	7.7
不足額	441.7	14.8

（８）災害リスク

○　静岡県の各種被害想定やハザードマップでは、南海トラフ巨大地震や想定される最大規模の豪雨等の大規模な災害があった場合、市街地を中心に甚大な被害が想定されています。

○　町屋や蔵など昔ながらの町並みが残る地区では、老朽化した木造建物や狭隘道路が多いなどの特徴から延焼リスクが高く、災害に対する市街地の脆弱性が懸念されます。

■ 災害リスクの概要

①　災害履歴をみると、七夕豪雨、伊勢湾台風などの際、太田川沿いや大府川（三倉）で浸水被害。

②　都市計画区域外の傾斜地に、土砂災害のリスクが多く分布。都市計画区域内にも土砂災害のリスクはあるものの、住宅地など都市的土地利用と重なるエリアは限定的。

③　想定しうる最大規模の降雨があった場合、太田川沿いの市街地において浸水リスクが懸念。城下、森、向天方の一部等では、浸水深が３ｍを超える地区もあると想定。

④　静岡県第４次地震被害想定では、南海トラフ巨大地震により、町全体で震度６強以上の揺れと、新東名高速道路より南側の田畑を中心に液状化が想定されている。想定される被害は、最悪のケースで以下のとおり。

- 死者数 約 130 人（要因は、建物倒壊が約 100、火災が約 20、山・がけ崩れが約 10）
- 建物全壊・焼失 約 3,960 棟（要因は、揺れが約 3,400、火災が約 500、山・崖崩れが約 60 等）

○　この他、本町から城下地区に続く街道沿道周辺は、昔ながらの町並みが残る一方、老朽化した木造建物が多く、また道路幅員が狭い、空地が少ないといった特徴から、火災発生時の延焼リスクが高い。

① 災害履歴　（出典：静岡県地震防災センターホームページ）

【災害事例　豪雨】

- 1962 年 9 月 4 日　太田川上流大河内で深夜 2～3 時にかけて 1 時間雨量 119mm の豪雨があった。太田川は急増水して、土砂崩れ・浸水により家屋に被害を生じた。

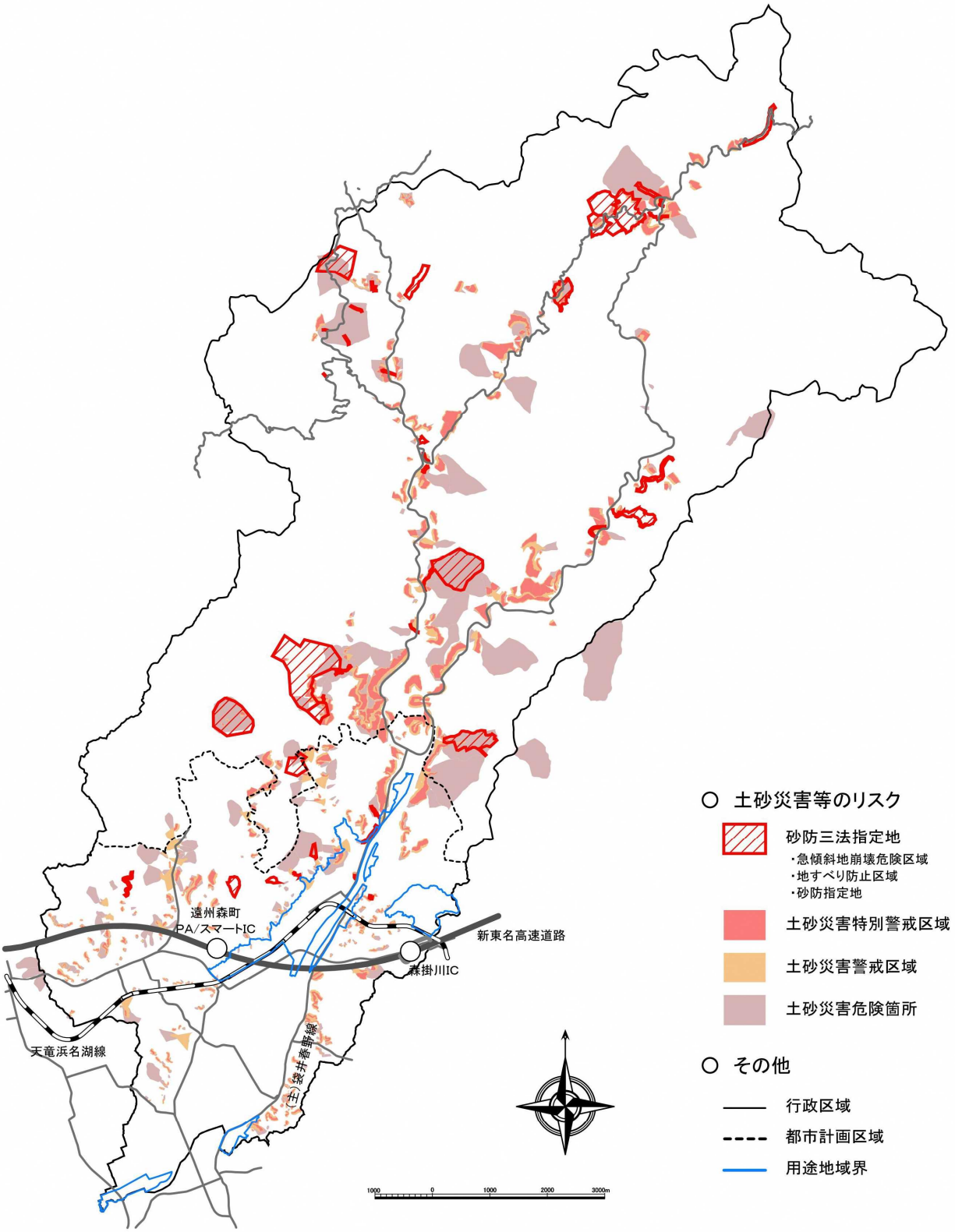
【災害事例　台風】

- 1911 年夏　飯田村では太田川洪水のため、橋梁流失 2 個所、山崩 2 個所、田畑の被害は甚大であった。一宮村でも堤防決壊 31 個所、山崩れは数え切れないほど生じた。
- 1959 年夏（伊勢湾台風）　県西部で被害が多かった。当地は森町三倉の大府川畔で全半壊家屋が多かった。また道路は周智トンネルなど各所で寸断、交通途絶した。
- 1974 年夏（七夕豪雨）　全県下に被害を与えた豪雨で、当地の被害は死者 1 人、負傷者 5 人、全壊 1 戸、半壊 2 戸、流失 9 戸、床上浸水 217 戸、床下浸水 494 戸、冠水田畑 35.47ha、決壊道路 49 個所、橋梁 8 個所、堤防 8 個所、山崩 86 個所であった。

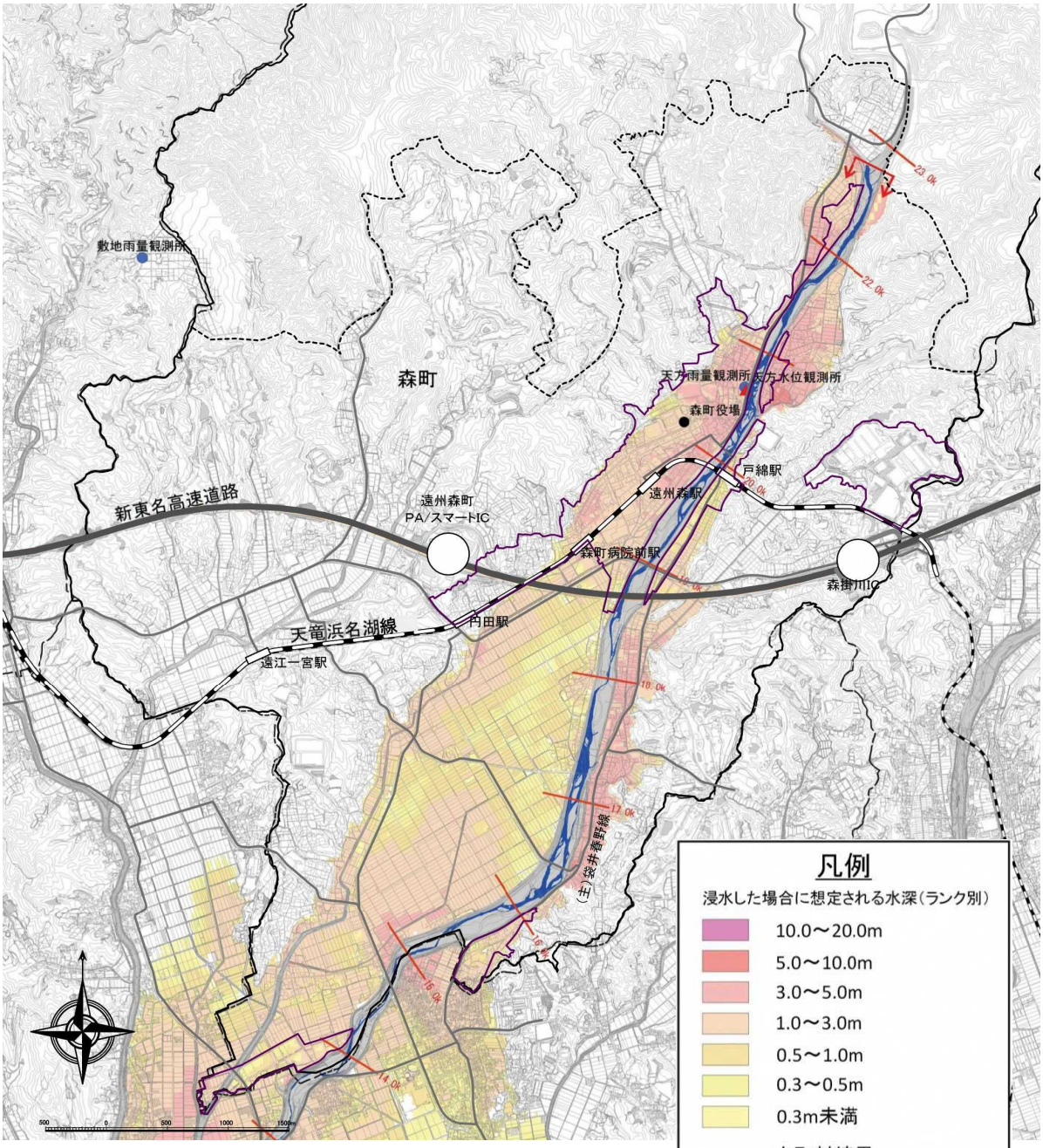
【災害事例　地震】

- 1944 年冬（東南海地震 M＝7.9）　県中・西部に被害があった。当地では森で全壊 1 戸、一宮で全壊 12 戸、半壊 23 戸、園田で全壊 25 戸、半壊 11 戸、飯田で全壊 12 戸、半壊 60 戸などの被害があった。三倉・天方では全半壊はない。各地での震度は、5～6 だった。

② 土砂災害（出典：県提供資料、国土数値情報）



③ 河川洪水（出典：太田川洪水浸水想定区域図　平成 29 年 7 月 7 日付け静岡県告示第 557 号）



＊　太田川の浸水想定は、想定される最大規模の豪雨による被害を想定したもの

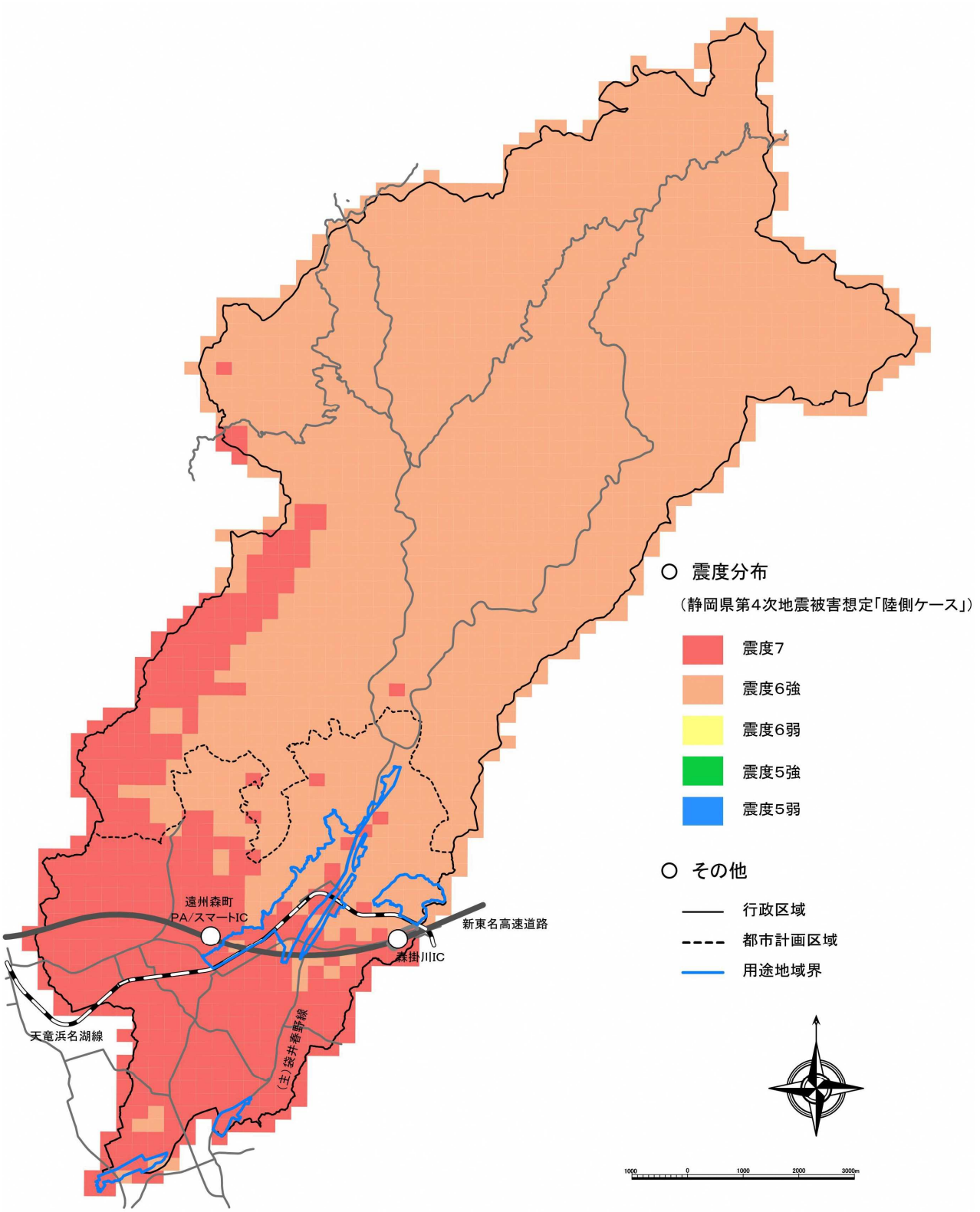
○　その他

——　行政区域

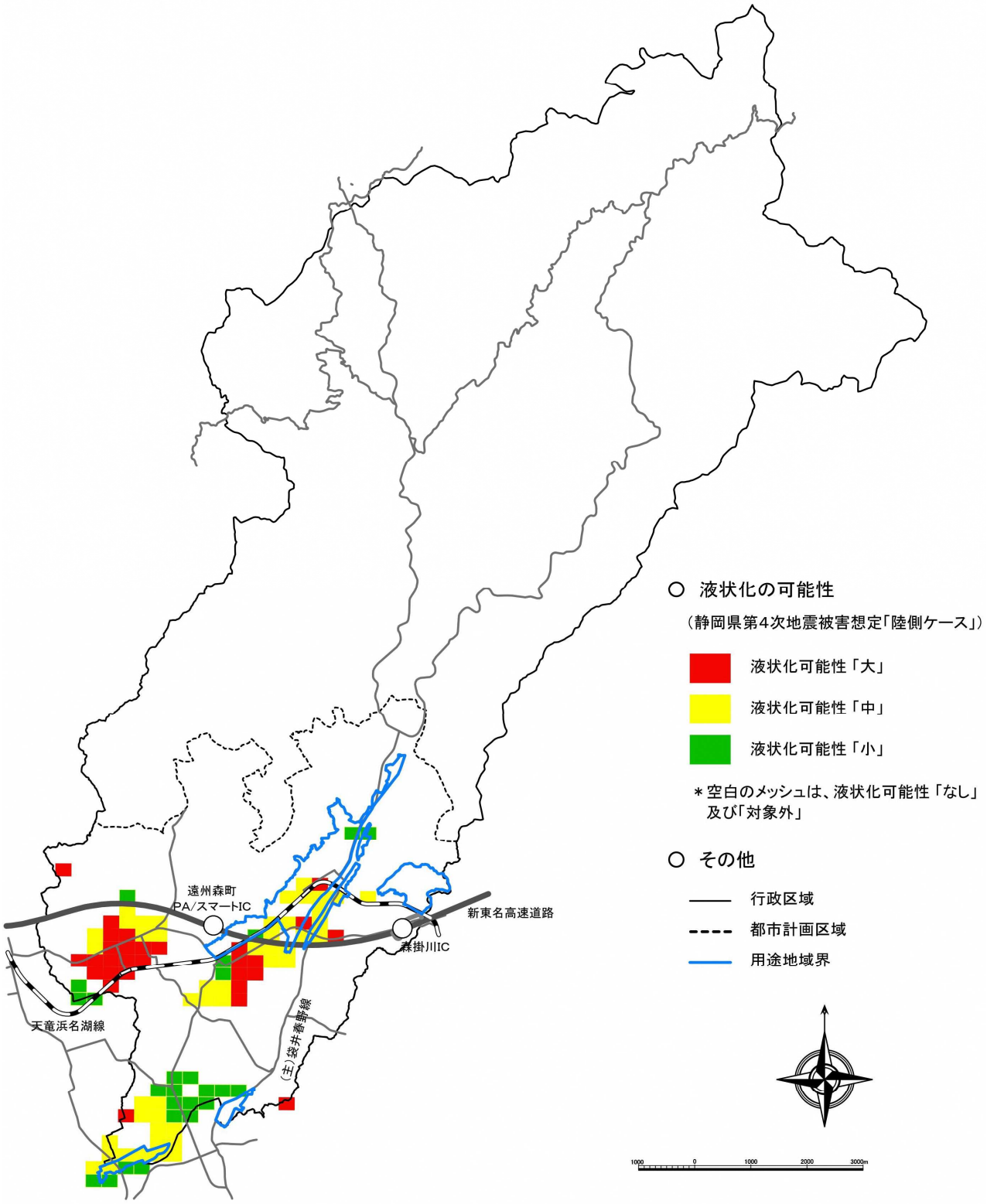
-------　都市計画区域

——　用途地域界

④-１　震度分布（出典：静岡県第４次地震被害想定）



④-２ 液状化（出典：静岡県第４次地震被害想定）



３．まちづくりの課題

本町の現況や町を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、人口減少・少子高齢化に伴うまち全体の活力の低下、新たな交通基盤等を活かしたまちの活力向上、災害リスクへの懸念といったまちづくりの課題に対応していく必要があります。

■ 課題の集約と整理

《森町の現況と課題》

（1）人口・高齢化	（2）産業	（3）土地利用	（4）基盤整備
（5）交通	（6）住まい	（7）財政	（8）災害リスク

《まちづくりの課題》

人口減少・少子高齢化に伴うまち全体の活力の低下

・人口減少・少子高齢化の顕在化　・地域コミュニティの衰退　・産業・文化の担い手の減少
・管理不足の土地や建物の増加　・生活を支えるサービスの質の低下

新たな交通基盤等を活かしたまちの活力向上

・町の２つのインターチェンジの活用
・周辺市町との連携促進

災害リスクへの懸念

・南海トラフ巨大地震や近年、全国的に多発する豪雨災害への懸念
・災害に対する市街地の脆弱性の存在